

第2回北陸橋梁保全会議 開催概要報告

・第2回北陸橋梁保全会議を平成28年10月25日(火)、26日(水)にわたり新潟グランドホテルで開催

【プログラム】

10月25日(火)

◇開会式

◇基調講演:「道路構造物の経年劣化の現状と課題」 三木千壽 東京都市大学学長

<概要>

- ・社会インフラの老朽化問題について → 原因を究明、除去し適切処置すればまだ間に合う
- ・笹子トンネルの事故とその後の動き → 道路法改正のとりくみ等紹介
- ・米国では → 米国と日本の現状比較、米国の対応について等
- ・点検と診断の実態 → 設計とは異なる挙動。十分な知識と現場の実績をもつ人材育成が重要
- ・あたらしい技術 → モニタリング技術の紹介
- ・目指すメンテナンス → すべての橋梁を+100年使用する

◇報文発表:45編

◇交流会

10月26日(水)

◇報文発表 15編

◇パネルディスカッション:「維持管理と人材育成」 座長 長岡技科大 丸山 久一 名誉教授

<パネラー>

- ①(一社)PC建設業協会 藤原 保久 氏
- ②(一社)日本橋梁建設協会 本間 順 氏
- ③(一社)建設コンサルツ協会 近藤 治 氏
- ④北陸地方整備局 道路保全企画官 星野 成彦 氏
- ⑤新潟県土木部 山ノ内 久 氏
- ⑥新潟市土木部 高橋 昌芳 氏

<概要>

座 長：橋梁の供用年数を決定し(目標100年)、補修、補強、解体撤去の時期を的確に判断すること。
技術は現場でしか伝承できない。技術者は現場でしか育たない。

パネラー：維持管理の現状、現場で直面する課題、人材育成のとりくみ等について紹介

議 論：橋種、橋長の違いに対し、点検内容は一律でよいのか？

必要な技術者数はどれくらいなのか、点検診断全体をコーディネートする人が必要ではないか？

◇閉会式

10月25日、26日の両日 技術展示28ブースを設置



三木千壽 学長



丸山 久一 名誉教授

【参加者数】

10月25日(火) 513名

10月26日(水) 475名

のべ988名 (10月25日(火) 交流会参加者 239名)

第2回北陸橋梁保全会議 開催概要報告

【開会式】



実行委員長 挨拶



中神整備局長 挨拶



寺田新潟県副知事 祝辞

【基調講演】



開会式に引き続き基調講演

【パネルディスカッション】



座長と6人のパネラー

【報文発表】



産、官、学で60報文を発表

【交流会】



【技術展示】



アンケート結果

